

「がん哲学外来をテーマにしたドキュメンタリー映画がもうすぐ完成」

がん哲学外来映画製作委員会会長(プロデューサー) 田寺 順史郎

1年間の準備期間の後、昨年10月にスタートしたドキュメンタリー映画「がんと生きる 言葉の処方箋」の製作は順調に進み8月にクランクアップしました。現在、野澤監督は数百時間の撮り終えた映像データの編集に没頭しています。ドキュメンタリー映画は最初から脚本がある訳ではありませんので、撮影した映像が監督の思い通り(気に入った)になっているかどうか、そして編集作業がとても大事なのです。11月早々に編集合宿を行い、最終稿を創り上げます。作曲、録音、チラシ、ポスター等の作業も同時進行で行っていきます。関係者試写会の日取りも12月14日に決定しました。そして、いよいよ上映開始です。福井、名古屋、松本を始め各地のメディカル・カフェでの上映会を企画して頂けそうです。来年は全国で出張上映会キャラバンが出来ればと思っています。是非、上映会をご検討下さい。監督もご挨拶に伺いたいと言っております。多くの方々からこの映画に対して大きな期待の声が寄せられています。皆様のご期待に応えられる作品となるよう最後の努力をして参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

「がんについて」さやかちゃんへのインタビュー

がん哲学外来映画製作委員会 青柳 志保



11月3日に名古屋で「日本対がん協会賞」を受賞したがん哲学外来メディカル・カフェ「どあらっこ」の受賞記念祝賀会が行われました。樋野興夫先生の講演の他、三重県在住小学校6年生の笠島彩楓(かさしまさやか)ちゃんが参加者に向けて研究発表をして下さいました。テーマは「がんについて」。お母さんの罹患をきっかけに、今年の夏休みの自由研究として小学校で発表したそうです。素敵なイラストがたくさんあり、子どもも大人もすぐにがんについて理解ができる素晴らしい作品でした。がんの先にある希望についても伝えてもらう事ができました。それは、さやかちゃんからお母さんへの愛情なんだと感じます。そのお母さんは「チームプルメリア」というフラダンスチームでダンスを披露して下さいました。全員ががんサバイバー。まだ結成して3ヶ月程だそうですが、お揃いの衣装で華やかながらも癒してくれるフラダンスでした。



*「がんについて」さやかちゃんへのインタビュー

Q.今日はどんな気持ちで発表したのですか？

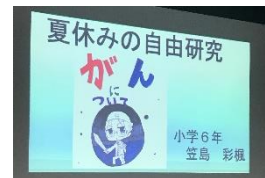
A.みんなに「がんはすぐ死なないよ」という事を知って欲しかったので、それを伝える気持ちで話しました。

Q.1番伝えたい人は誰でしたか？

A.1番伝えたい人は全員なんだけれど、今日担任の先生が来ていたので先生に知ってもらいたかったです。

Q.どうして担任の先生は知らないと思ったのですか？

A.もちろん、知ってるかもしれないけど、でも学校でがんの事についてあんまり勉強しないので…今日いるメンバーの中で一番知らないのかなと思いました。

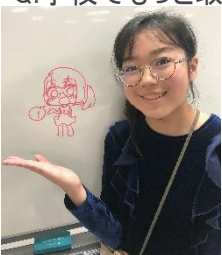


Q.学校でもっと取り上げて欲しいのですね。ではこれから自分が学校でしていきたい事はありますか？

A.自分の自由研究の事をもっとみんなに知って欲しい。そして「がん教育」の事も知って欲しいし広まるようにしたいです。

Q.期待してますね！！最後に、将来の夢はなんですか？

A.イラストレーターになりたいです。そしてイラストを使ってがんの事を伝えていきたいなと思っています。



小学生でがんについて深く考えている姿に、大人である私たちも出来る事が何かあると教えてもらいました。さやかちゃん、これからもずっと発信し続けてくださいね！応援しています！